

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 4 1	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>The effect of the interaction between obesity and drinking on hyperuricemia in Japanese male office workers.</p> <p>日本人男性会社員において肥満と飲酒が高尿酸血症に及ぼす相互作用の効果</p>	
執筆者	
Shiraishi H, Une H.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Epidemiol. 2009;19(1):12-6. Epub 2009 Jan 22.	
キーワード	
飲酒、疫学、高尿酸血症、相互作用、肥満	
要 旨	
<p>目的： 肥満と飲酒は高尿酸の危険因子として知られている。しかしながら、高尿酸血症に及ぼす両因子の相互作用の効果に関してはあまり明らかになっていない。</p> <p>方法： 症例は高尿酸血症（血清尿酸値 7.0mg/dL 以上）を有する男性会社員 3028 名、対照は血清尿酸値 6.0mg/dL 未満の男性 5348 名。高尿酸血症の危険因子および肥満と飲酒とが高尿酸血症に及ぼす相互作用を評価するためにロジスティック回帰を用いて解析した。BMI により対象者を二つにグループ分けした：BMI が 25 以上を肥満群、25 未満を非肥満群とした。さらに、アルコール摂取量により参加者を 5 グループに分けた。これら 2 種のグループ化により計 10 群を設定した。</p> <p>結果： 非肥満かつ非飲酒者を基準群として高尿酸血症のオッズ比 (OR) を示すと、アルコール摂取 < 25mlL/日の非肥満者 1.80、25～49mlL/日の非肥満者 2.15、50～74mlL/日の非肥満者 2.60、75mlL/日以上の非肥満者 2.56、肥満の非飲酒者 4.40、アルコール摂取 < 25mlL/日の肥満者 5.74、25～49mlL/日の肥満者 6.57、50～74mlL/日の肥満者 5.55、75mlL/日以上の肥満者 7.77 であった。肥満と飲酒が高尿酸血症に及ぼす相互作用は統計的に有意であった。</p> <p>結論： 本研究結果が示すところによると、肥満と飲酒とが高尿酸血症のリスクに及ぼす効果は相乗的増加までは達しなかったが、相加的効果よりは大きかった。</p>	